

読書をするための椅子の提案

The suggestion of a chair for reading books

佐藤玄弥

指導教員 坂元愛史

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 インテリア家具研究室

キーワード：本， 本棚， 空間， 椅子

1. 研究背景と目的

一般的に読書は読解力に加え，コミュニケーション能力や教養，知識，語彙を身につけることのできるとても価値のある行動であると考えられる。しかし近年，日本人の読書量が減少傾向にあるように思われる。その読書量に比例して，読解力も減少しているようだ。その読書を習慣化させると同時に，日本人の読書の量を増加させ，読解力を向上させることを目的とする。

2. 調査

2-1. 読解力

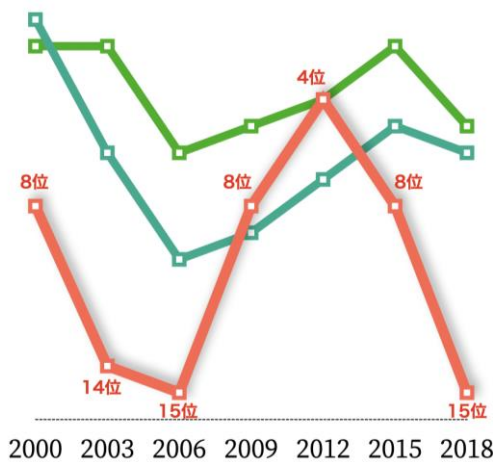


図1. PISAにおける日本の順位の推移
赤；読解力 青；数学的リテラシー
緑；科学的リテラシー

これは，PISAにおける日本の順位を示したグラフである。読解力の順位の変動が他の二つの分野に比べ激しく、安定していないことがわかる。さらに最新の調査結果である2018年の順位が大幅に下がっているなど、全体的な読解力の低下が表れている。読解力は、これからますます発展が予想される情報社会を生きるための基礎力であり，これが将来の国の明暗を分けるかもしれない。

2-2. 読書時間

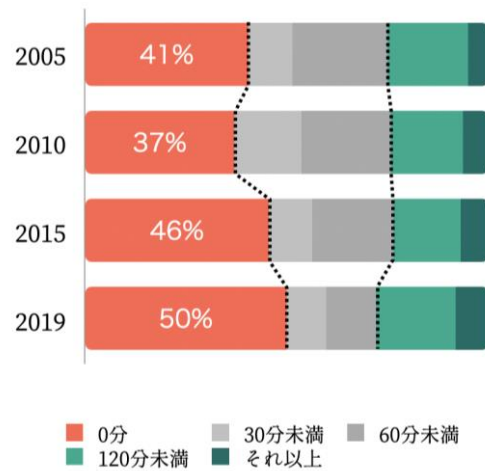


図2. 大学生の1日の読書時間

学習に読書を取り入れることが多くであろう大学生を対象にしたこの読書量の調査では，本を全く読まない人が年々徐々に増加していることがわかる。2019年には約半数もの学生が，本を全く読まないと答えている。これは，本や雑誌などの紙媒体に比べ，スマートフォンやパソコンなどの電子媒体の利用時間が大幅に増え，読書に没頭するための時間や環境が失われていることが原因であると考えられる。

2-3. 読書週間

読書習慣はいつ頃までに形作られるのか。10歳ごろの読書量が将来の読書週間に影響すると述べている書籍がある。子供のうちに本を読んでおくことは将来の読書習慣を形作ると同時に，学力にもつながる非常に重要なことである。

2-4. 空間

また読書に集中するためにも，子供には集中できる空間を持たせる必要があると考える。しかしそういった空間がない家庭や，最近では，部屋を小分け

にせず、一つの大きな部屋にまとめる建築様式が主流となっていることなどから、空間を作ることは簡単ではない。よって、家庭内でそのような環境づくりが必要であると考えた。

2-5. 電子書籍

もう一つ、近年普及しつつある電子書籍と紙の本を比較した研究がある。2013年にノルウェーの大学で行われた研究で、テキストとしたときに、紙の本の方が電子書籍よりも内容の理解度が上回ることが明らかになった。理由としては、電子書籍はデータを1ページずつスクロールせざるを得ないので、情報を瞬時に見つけることが難しいことや、文章の量に合ったサイズ感や重さではなかったことが挙げられた。これらは読書経験に不快感を与える。このことから、電子書籍では読書に楽しさを感じづらく、読書習慣を身に付けることは困難であると考えた。

現在はデジタルネイティブの人たちが増えてきており、将来的にこのような不快感が当てはまっていくかどうかはわからない。しかし現状ではそのような電子書籍に不快感を感じる傾向が比較的強いだろう。

3. 問題点の整理とコンセプト

調査から得られた問題点を整理すると、

- ・日本人の読書量、並びに読解力の低下の傾向が見られる。
- ・読書を全くしない人が増加しており、その割合は直近の大学生では5割にも及ぶ。
- ・読書習慣は10歳ごろまでに形作られる。これ習慣は将来の学力にも良い影響を及ぼす。
- ・スマートフォンの利用時間が増加しており、読書に没頭するための時間や環境が失われている。
- ・近年電子書籍が普及しているが、これは読書に対する楽しさを感じづらく、読書習慣を身に付けるという目的にはあまり適していない。
- ・読書には一人で集中できる空間が必要であるが、様々な理由から、その空間を作ることが難しい場合がある。小さい子供の場合、親の目が届く必要もある。

以上のことから、今の日本人には、読書量を増加させ、読解力を養っていくことが必要であると考えた。そしてそのためには、紙の書籍に触れることが重要である。そのための空間づくりが必要であると結論づけた。

これらの問題点から、「読書に集中するためのミニマムな空間」をコンセプトとし、そのために、椅子と本棚を融合させたプロダクトを制作する意向を固めた。文字が読めるようになり始める6歳ごろから10歳ごろまでの小学生をターゲットユーザーに設定する。

4. 既存の製品



図3. The Library Chair

本棚の機能を備えた椅子には、上図の The Library Chairがある。今回の制作物は、より機能的で、プライベートな空間を備えたものにする予定である。

5. 検証

1分の1の部分的な試作を制作し、座ろうとするときの恐怖感や、座り心地を検証する予定である。

6. 今後の展開

CAD上で設計、同時に部分的に試作をし、本製作に入る。

引用文献

- 1) 全国大学生生活協同組合連合会：第55回学生生活実態調査，2019
- 2) 国立教育政策研究所：OECD生徒の学習到達度調査，2018
- 3) Scientific American：“The Reading Brain in the Digital Age: The Science of Paper versus Screens”，2013

注)

1) PISAとは、OECDが進めている15歳を対象にした国際的な学習到達度に関する調査のこと。読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの三分野について三年ごとに調査している。